

第30回

住まいのリフォームコンクール

入 選 作 品

第30回住まいのリフォームコンクール

住宅リフォームの普及促進と質の向上を図るために、「住まいのリフォームコンクール」を開催しました。単に「リフォーム」と言っても多岐に渡り、これからの高齢化社会に配慮したバリアフリーリフォーム、地震に備えての耐震改修、地球環境に配慮した省エネリフォーム、伝統技術の継承を生かした古民家再生、長く使える工夫を施したリフォームなど様々です。

数ある応募作品の中でも、特に安心・安全・快適な住まいへと変貌を遂げた「リフォーム事例」の受賞作品をご紹介します。様々な創意・工夫に溢れた良質なリフォーム事例に触れることで、今後リフォームを考える方々に少しでもヒントとなれば幸いです。

第30回「住まいのリフォームコンクール」審査講評

住まいのリフォームの優れた事例を表彰してリフォームを推進することを目的とした、(公財)鹿児島県住宅・建築総合センターの主催する「住まいのリフォームコンクール」は今年で30回目となった。今年の応募作品は、木造や鉄筋コンクリート造の築60年から築11年までの17件で、築40年代から築30年代の戸建て木造のリフォーム作品が多かった。鉄筋コンクリートの共同住宅の改修作品が2作品と少なかった。

今回の多くの木造戸建ての作品は、それまで最も格が高かった座敷の床や欄間、引き戸・畳・縁側を撤去して大壁のクロス張りのインテリアに変え、畳敷もほとんど室内から姿を消していた。ある意味、室内はRCの共同住宅とほとんど変わらない設えとなっている。建築学科に入学する学生は、今やほとんどが、畳や障子を知らない世代となっている。しかし、畳や障子は、地域にまだ畳屋、建具屋があり、それらをリフォームで使うことは、地域経済の活性化にもつながるはずである。審査では、屋根形状に合わせて天井高さを確保している作品も見られたが、木造戸建てらしい、和のモダンとも言えるような提案があってもよいのではないだろうか。木造建築が持っている良さを捨て去るのではなく、木造の民家にある味わいを引き出すようなモダンデザインは、今の若手から中高年まで受け入れられる可能性が高い。コロナ感染下、来日する海外旅行者の姿はほとんど見られなくなったが、彼らは畳や真壁の設えを求めている。例えば、和室の床に、現代アートの額をかけてみるとその設えは、急に古風な印象からモダンなイメージに変えることができる。身近にある日本の伝統的な美しさを見直し生かすことにより、新築戸建て住宅よりリフォーム戸建て住宅の方に魅力を感じる建築主が増えていったほしいものである。また、木造住宅の大壁部分は、内部にシロアリが営巣しやすく、何らかの対策を行うことが望ましい。今回の受賞作の中でも、大壁の断熱に、ホウ酸系の断熱材の一つであるセルロースファイバーを防蟻対策として施工している作品が見られた。真壁を内部間仕切りに使えば、地震等の際に、大壁構造では主構造が見えずどこが被災したかわからないが、真壁構造では主構造が露出しており、被災した部分が一目瞭然である。このような長所は、長年日本で培われてきた伝統木造の知恵の一つでもある。

さて、今年度の審査委員会は9月28日に開催され、最初に7名の審査委員が17件の応募作品を各自読み込んだ後、一人7票を各作品に投票した。今回は満票の作品がなく、6票が一作品、5票が三作品、四票が二作品、3票が三作品、2票が三作品、1票が四作品、票の入らなかった作品が一作品となった。まず、1票2票の作品について、議論を行った。その結果、2票の作品で伝統的な材料を用いた小規模改修案があり、それを含めた10作品で再投票を行い、6票が三作品、5票が四作品、3票が二作品となった。そこで6票と5票の計7作品について意見交換し、その七作品に審査員が3票ずつ投票、5票が一作品、4票が一作品、3票が二作品、2票が二作品となった。

そこで、5票の『シニア世代の二世帯住宅 快適平屋の住まい』を県知事賞、次点だった4票の『リノイエ〜Re:Neue〜』を理事長賞、3票の二作品『思い出と暮らすセカンドライフ』、『諦めていた大きなリビング』を企画賞、2票の三作品『色彩・素材の力で空間に息吹を与える』、『景色をコントロールする家』、『二世代にわたる終の棲家』を奨励賞に決定した。今年度は、優れた耐震補強の作品を主に表彰していた特別賞は対象作品無しとし、一步及ばなかったが小規模改修の『和壁の魅力』を部門賞とすることとなった。

今年度は、知事賞、理事長賞の他に、企画賞2作品、奨励賞3作品、部門賞1作品の総計8作品を受賞対象として、最終決定した。なお、審査終了後、各応募者・設計者・施工者が事務局より審査員に開示され、また、今後のコンクールの募集内容等について意見が交わされた。

住まいのリフォームコンクール審査委員会

委員長 鯨坂 徹 [鹿児島大学大学院理工学研究科 教授]

■ 審査委員

委員長	鯨坂 徹	鹿児島大学理工学域工学系理工学研究科工学専攻建築学プログラム教授
委員	古川 稔	(一社)鹿児島県建築士事務所協会会長
委員	打越 綾	(公社)鹿児島県建築士会女性部会幹事
委員	桑原 耕	(一社)鹿児島県建築構造設計事務所協会会長
委員	岩元 ミユキ	鹿児島県インテリアコーディネーター協会会長
委員	高崎 智幸	鹿児島県土木部建築課住宅政策室長
委員	西園 幸弘	(公財)鹿児島県住宅・建築総合センター理事長

知事賞

「シニア世代の二世帯住宅 快適平屋の住まい」

築 23 年の木造二階建ての住宅の 2 階部分を解体、軸組状態として耐震補強を行い、長期優良住宅、BELS の認定を取得した平屋の戸建て住宅の作品。国土交通省の長期優良住宅化リフォーム推進事業の補助金も受け耐震性能等も向上させ、高齢の母と夫婦のすまいに改修した点も評価が高かった。2 階を減築したので、室内外とも、以前とはまったく異なる空間、デザインに改修されており、県知事賞にふさわしいリフォーム作品である。可能であれば、畳敷の部屋が一室あってもよかったのではないかと惜しまれる。

企画賞

「諦めていた大きなリビング」

県北にある築 35 年の両親の 123 ㎡の平屋をリフォームした作品で、長期優良住宅リフォーム評価基準型を取り入れている。田の字平面とも思われる中央部分の左右に水回りと洋室が配置されていたが、中央部分をほぼ一室の LDK とし、左右を個室に全面改修している。しかし、外壁が白から濃色に変わってはいるが、入母屋の瓦の屋根形状は前と変わらず、地域の景観に馴染んでいるように思われ、評価できる。

奨励賞

「景色をコントロールする家」

今回受賞作品の中で、唯一の RC 共同住宅のリフォーム案。大型の 4LDK の改修で、築年が 11 年と浅く審査員の評価がわかれた。ただ RC 分譲マンションの場合、間取りが決まっているので、立地と景観等で購入し、今回のように定年を区切りに間取りを本来の住み方にリフォームする可能性がある判断した。桜島の展望を生かすため、敢えて室内に段差を設け、上げ下げ障子を採用する等々、心地よい空間が読み取れ、好感のもてる作品である。

奨励賞

「二世代にわたる終の棲家」

県北の築 50 年の平屋を、定年を機に両親と同居するため全面リフォームした作品。住まい方の変化に応じて、玄関や水回りの位置も変え、屋根も切妻の金属葺きに変えている。足元周りの防蟻対策だけでなく、セルロースファイバーの断熱工法を採用している点も評価された。住み方から止むをえず選択したと考えられるが、南側に食品庫や玄関が配置されており、審査員から疑問の声があった。敷地の状況がもう少し理解できる審査資料が欲しかった。

理事長賞

「リノイエ～ Re:Neue ～」

指宿市の築約 60 年の空き家の木造平屋住宅をリフォームして賃貸住宅として活用する積極的な提案。県内では、空き家が増え続けており、その朽ちつつある民家を生き返らせた点の評価が高かった。民家の田の字型平面が、一見すると RC 共同住宅の平面のように改修されているが、ユーティリティまで含めた各室に窓が確保され、戸建て住宅だから可能な快適な居住空間を確認できる。屋根は瓦葺きの入母屋から片流れの金属葺きに一新されているが、果たして周りのまちなみにふさわしいかは審査資料から読み取れなかった。

企画賞

「思い出と暮らすセカンドライフ」

築 37 年の平屋の住宅をリフォームし、金属葺きの軽快な住宅とした作品で、WEB 上にリノベ塾と題し、改修の過程を詳しく情報発信している点も評価された。ZEH 基準を満たし、縁側や中廊下を取り込み広々とした空間に一新、漆喰や畳を用いて和モダンとアビールして好感もてる内容だった。また、縁側をなくしているが、外縁を新たに設けて、庭との関係性を確保しており、設計者の細かい配慮と力量が読み取れる。ただ、個人的にはもう少し、伝統的な設えとする可能性もあったのではないかと感じた。

奨励賞

「色彩・素材の力で空間に息吹を与える」

築 30 年の中古住宅を新しい家主となった家族に合わせてリフォームした作品。「色彩・素材」を変えることによりインテリアを一新することを意図している。不要となった車庫上の二階部分を減築した点が評価されたが、残念ながら審査資料にリフォーム後の外観写真がなく惜しまれた。確かに色彩を変えることはコストを抑えてイメージを一新できる方法である。しかし、構造的な制約から困難だったと思われるが、あと一歩空間的な提案があってもよかったのではないかなと思われる。

部門賞

「和壁の魅力」

築 18 年の RC 住宅の一部を改築し、外部の路地状だった細長い空間を寝室に増築改修した作品。漆喰や障子、畳、縁側空間があり、和のモダンの設えである。また、寝室は天井照明を無くして間接照明、ウォールウォッシャー、スタンド照明としている点が、心地よい空間にしている。寝室には天井照明をつけないという照明デザインの基本原則が読み取れ、建築主の考えと設計者の力量を高く評価したい。小規模改修があり見られず部門賞となったが、改修の質の高さは卓越している。



知事賞

「シニア世代の二世帯住宅 快適平屋の住まい」—— 1p
有限会社ゆうあいプラン



理事長賞

「リノイエ〜 Re:Neue 〜」—— 2p
有限会社幸福住建



企画賞

「諦めていた大きなリビング」—— 3p
有限会社リビング亀沢



企画賞

「思い出と暮らすセカンドライフ」—— 4p
株式会社正匠



奨励賞

「色彩・素材の力で空間に息吹を与える」—— 5p
志賀建築設計室



奨励賞

「景色をコントロールする家」—— 6p
株式会社 IFOO



奨励賞

「二世代にわたる終の棲家」—— 7p
株式会社タケシタ



部門賞

「和壁の魅力」—— 8p
株式会社建築工房 Work・Space

リフォーム前

■ リフォームの経緯

元々、お母様とご夫婦2人は、隣同士で住んでいたが、お母様がご高齢ということもあり心配な点も増えてきたので一緒に住むことに。建て替えも考えたが、お父様が建ててくれた家を残したいという思いがあり、ご夫婦の家を売却し、リフォーム費用に充てることにした。

既存住宅は、木造2階建て延床面積217.37㎡と広く、使用していない部屋も多かったため、その部分は解体・減築、また、お母様とご夫婦お二人が歳を重ねたときのことを考えると、1階で生活ができる平屋をご希望だったので二階を解体することで、ご家族の生活スタイルにマッチした空間にするための減築リフォームとなった。

■ 解体状況



2階解体前



解体工事中



2階解体後

2階・外壁を解体し、骨組みだけの状態にし、耐震補強・断熱工事を行った。



耐震補強

天井 断熱材
アイン吹付壁 断熱材
アイン吹付床 断熱材
マフォーム

断熱等級性能 4

lw 値（耐震構造指標）1.95

補助金 250万円

傷んだ柱はやり替え、金物等補強を行い、lw 値 1.95 と改善。さらに、天井・壁・床には断熱材を設置、窓は複層サッシに交換し、夏は涼しく冬は暖かく快適な住まいへ。

長期優良住宅、BELS の認定を取得し、住宅性能を高めつつ付加価値をプラスした。また、国土交通省の長期優良住宅化リフォーム推進事業の補助金（250万円）を活用し、金銭面での負担を軽減。



リフォーム後



外観



既存の梁を生かした
雰囲気ある天井。



既存を生かしつつ、廊下・縁側等のスペースを省き、和室の部屋はフローリングにし、リビング・ダイニングと続き間にする事で広々大空間へと生まれ変わった。収納スペースをまとめ、水回り等動線を充実させて暮らしやすさを実現。

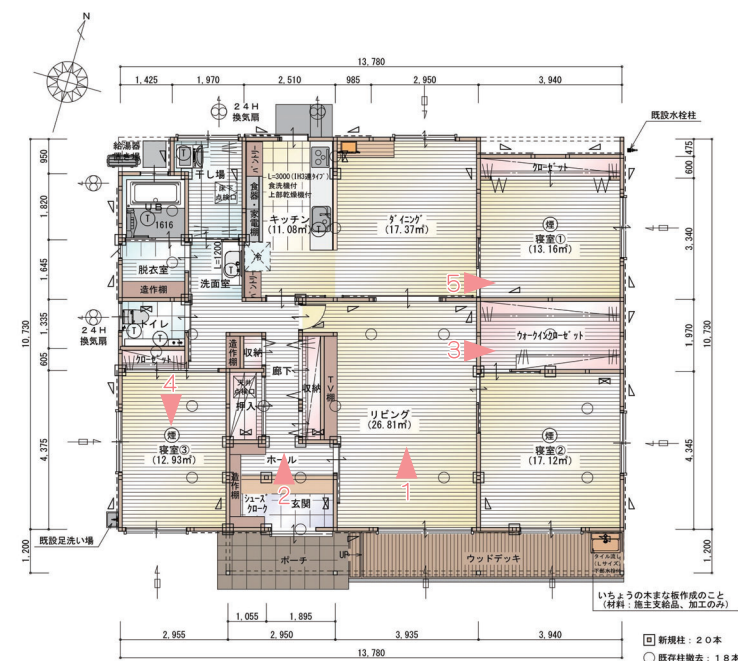


生活リズムの違う3人それぞれのプライベート空間は確保しつつ、団らんスペースを広めに設け、深みのある色合いで落ち着いた雰囲気 연출。

リビングの梁は既存のものを残し、補強・塗装し温かみのある空間に。玄関から続く廊下の両脇に収納スペースを設けたり、室内物干しの所に洗濯機を置くスペースを設けたりと、使い勝手にもこだわった。



床はご主人こだわりのウォールナット。



応募者

設計者

施工者

築年数

構造

建方形式

竣工

工事期間

工事費

所在地

リフォーム内容

住まいる玄

(有)ゆうあいプラン

鶴本 博美

23年

木造

一戸建て

2020年2月

180日間

1,500万円

鹿児島市

減築・耐震補強・断熱・外装・内装・設備

リフォーム前



■外観(リフォーム前)
構造体残して内外装材をすべて撤去。
取り外したアルミサッシや構造材は再
利用して工事費を押さえた計画。

薩摩半島最南端のまち、指宿市の唐船峡近くに計画建物はあります。
築約60年の木造平屋で空き家となってから15年ほど経ち、建物所有者は県外
にいたため年に一度管理で戻ってくる状況でした。
その所有者から地元の会社経営者に「この建物を引き取ってくれないか」との
打診があり、地域のために何かできないかという思いもあり、賃貸住宅へリフ
ォームして地域活性化・過疎化防止に役立てることを目的として、この空き家
を引き取ることになり、本建物のリフォームプロジェクトがスタートしました。
内部の構造体はほとんど傷んでいませんでしたが、田の字型の間取りと約
14.8坪の広さでは生活に十分な空間が確保できないこともあり、改修費用を
押さえつつも内装・外装ともに大胆なリフォームを計画しました。
リフォーム後の間取りは小さい子を持つ若い夫婦を想定した17.5坪の
1LDK+予備室のコンパクトなプラン。結果として工事期間に未就学児が一
人いる若い夫婦の入居が決まり、この地域で新しい生活が始まっています。
現所有者が思い描いた空き家の再生、そして地域活性化、過疎化防止につな
がる想いがカタチになりました。



■改修工事の状況
建物の傾きや歪みを調整した後、解体し
た構造材に大工が墨付けを行い手刻み
による屋根架構の変更や増築を行った。



リフォーム後



■勾配天井のリビング・ダイニングは柱・梁の構造美を楽しむことができる。



■コンパクトでシンプルな玄関



■使いやすい対面式キッチン



■予備室の上には多目的なロフト



■7.0畳の寝室

Re:Neue

「リノイエ」とは”リノベーションした家”という意味だけではなく、
Re(英)・・・再び + Neue(独)・・・新しい
Re:Neue(リノイエ)とは”再び新しい命を宿した家”という意味を込めた造語です。

既存の入母屋の屋根形状を大胆に改修して元の建物の面影を感じさせないモダンな
外観デザイン。室内は既存の柱、差鴨居、小屋束を現しとし、空間を広く見せるだけで
なく、伝統的な木造工法の構造美と木の質感や暖かみを感じられる空間としています。
水廻りを集約した動線計画、筋交・金物での構造補強、断熱材の充填をしっかり行い安
心して快適に過ごせる賃貸住宅として空き家に再び新しい命が宿りました。



■アプローチ



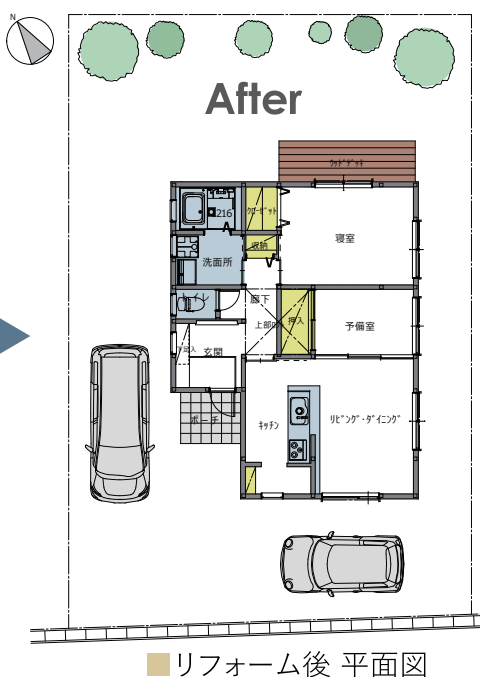
■廊下



■洗面脱衣室



■トイレ



応募者

(有)幸福住建
福永知哉

設計者

幸福住建一級建築士事務所
福永知哉

施工者

有限会社幸福住建

築年数

60年

構造

木造

建方形式

一戸建て

竣工

2018年11月

工事期間

143日間

工事費

680万円

所在地

指宿市

リフォーム内容

内外全体リフォーム+増築

リフォーム前



- ・施主が両親から家を譲り受けたが、昔ながらの間取りで、使い勝手が悪かった。
- ・キッチンが家の端にあり、他の部屋に居る家族とのコミュニケーションがとりづらい仕様となっていた為、家族みんなで過ごせる広いリビングを希望していた。
- ・床の間と仏間は物置となっていた為もっと活用できる部屋を作ろうと考えた。

リフォーム後



- ・和室を3部屋つなげて27畳の大きなリビングに。補強で入れた梁を活かし、勾配天井にして開放的なリビングとなっている。
- ・家の奥に配置されていたキッチンを生リビングに移動させた。家事動線が良くなり、家族とのコミュニケーションも取りやすい間取りとなった。
- ・オリジナルのテレビボードを設置し、背面にはエコカラットを使用。寝転んでくつろげるように、3帖の畳スペースを作った。



リフォーム前平面図



設計施工のポイント（増改築等の工夫）

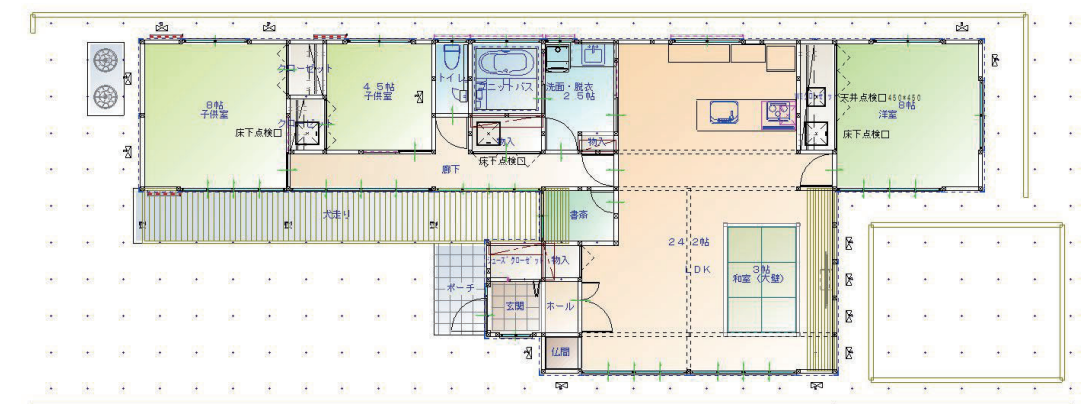


柱を取り部屋を繋げる事が難しいと言われ諦めていたリビングも、補強計画を立て、大きな梁を入れ補強することで、広々としたリビングを作ることが出来た。

床・壁・天井すべてに断熱材を入れ、新築同様の仕様となった。

もともと日当たりの良かった縁側箇所にリビングを作った。日中は外からの光が十分取り込めて、電気をつけなくても明るい部屋となった。また、縁側のサッシはそのまま利用し、内側にインプラスを取付けることで、断熱効果や防音効果を高める事が出来た。

リフォーム後平面図



※長期優良住宅化リフォーム評価基準型も取り入れ施工実施

応募者	設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	所在地	リフォーム内容
(有)リビング亀沢	(有)リビング亀沢	(有)リビング亀沢	35年	木造	一戸建て	2019年10月	90日間	1,340万円	伊佐市	全面リフォーム

リフォーム前

① 中央和室



② 西側和室



③ 東側和室



④ 台所



⑤ 外観



リフォーム後



① 外観 外壁の貼り分けでアクセントをつけ、スタイリッシュな見た目に。



② 玄関 造作の縦格子の建具の左側には、既存の障子を一部分だけみせた洗面納戸への採光に！



③ 土間 好きなものをいっぱい詰め込んだ男前な遊び部屋。

⑥ 和室 既存の床柱や落とし掛けを再利用しているだけでなくクロスを貼り分け、間接照明など、こだわりぬきました。



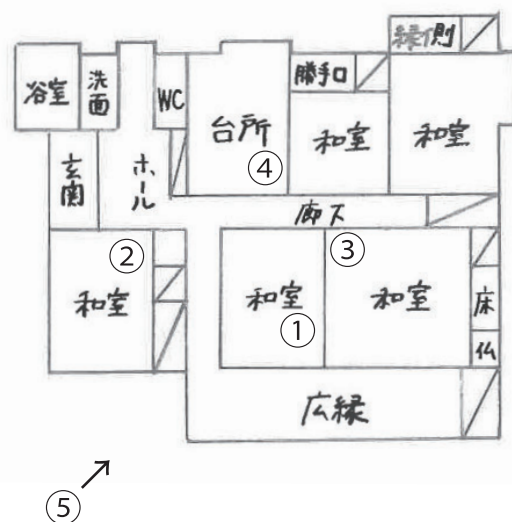
④ リビング 仕切りが多かった間取りを開放的な空間とした。



⑤ キッチン 収納はお客様と細かい寸法まで打ち合わせした大容量の収納を設えた。



リフォーム前平面図



設計施工のポイント（増改築等の工夫）

基本構想：子育ての終わった施主様ご夫婦。これまで、駅近のにぎやかで便利な街に暮らしていました。しかしそこは、お孫さん達が来ててもなかなか庭という場所で遊ばせることもできず、穏やかに暮らすことが少しだけ難しい場所でもありました。「老後」を考えるうえで、穏やかな時間を楽しめたら。そんな想いで居ながら、なかなか思い切れずにいたご夫婦が選んだのは、これまで空き時間を使い維持管理していた、広い庭のある自然に囲まれた奥様のご実家での暮らしでした。私たちが、奥様のご実家に訪問した時、昔ながらの趣あるお家ではありましたが、断熱性や耐震性を鑑みると、現代の基準には適合し兼ねる環境ではないかと感じました。年を重ねていく中で、暑さや寒さに厳しい環境では、健康的かつ心地よい穏やかな生活が楽しめるのでは…そう考える、耐震性能や断熱性能を向上させる工事をご提案しました。今回の施工におけるポイントは、安心して暮らせるよう基礎や構造躯体を構造計算したうえで補強し、耐震性を現代の基準に合うよう向上させました。また家で過ごす時間が増えるご夫婦にとって、「ランニングコスト」は抑えたいという希望を考慮し、新築の ZEH の基準になる断熱材や窓サッシを採用致しました。また設計におけるポイントは、この場所をちゃんと次の世代にも残したい…と感じていたご夫婦の想いを汲み、仲のいい家族が集まった時にちゃんと寛げるように築 37 年の平屋建て住宅の思い出を感じてもらえるように、当時のタイコ梁や柱などをあえて化粧材として見せながら、広々とした開放的なスペースを計画しました。またセカンドライフということで、ご主人には玄関からそのまま靴を入れる土間スペースに、薪ストーブを設え、灯る炎を楽しめる男部屋を、料理が得意な奥様にはキッチン周りの収納を充実させ、ウッドデッキにはお布団もろくに干せるようパイプを低い位置に取付け、家事の負担が少しでも軽減するように工夫もしてあります。それぞれのライフスタイルをしっかりと考慮して、プランニングしました。

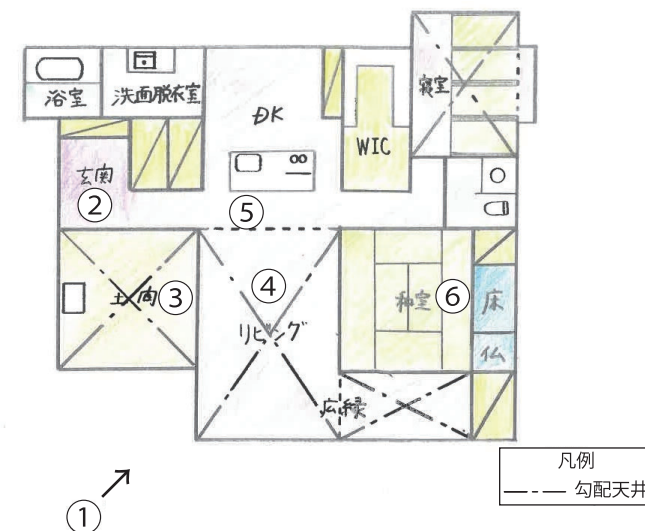
デザインの工夫：

- ・広い庭の景観を活かすため広縁側には大きな FIX 窓を設置。外を眺めると切り取ったような綺麗な庭と桜島が目に入り、まるで額縁のようなきれいな窓に庭の綺麗な緑が映えます。また、建物の中の窓サッシは全て防犯ガラスを設えました。
- ・ダイニングキッチンフラット天井には白地のクロスにオークの杉材を等間隔で配置し、和モダンな雰囲気を出しました。
- ・思い出を大切にしたいというお施主様の思いをくみ取り、和室の床柱や落とし掛けの再利用、玄関部分に既存の障子を部分的に見せ、元々の住宅の良さも感じられる空間をいたるところに散りばめました。
- ・ご主人の遊び部屋である土間は、あえて使用感のある足場板を床に敷き詰めて薪ストーブのステージの背景には、あえて外部用の化粧ブロックを用いて男前な空間を演出。直接庭へも出ることができ、家族や友人の集える空間としても一つの「男前リビング」に仕上がるよう計画しました。

技術的な工夫：高度省エネ型の長期優良住宅化リフォームということで、性能は文句なしの数値。断熱材は床・壁・天井ともに断熱施工をして築 37 年の住宅が断熱等級 4 になりました。その他 UA 値=0.6、一次エネルギー消費量 25%削減、仕上りも漆喰を採用し省エネと心地よい空間をとことん追求し、安心と数値だけに表れない喜びも追求しました。住宅の性能は格段に良くなっていると胸を張って言えるほど性能にはこだわりました。

見た目をおしゃれにかっこよくすることはもちろんですが、セカンドライフとしてこれから長い時間を過ごすお施主様にとって、住宅の性能を上げることは必要不可欠なことです。何年経ってもリフォームをしてよかったと思っていただけるような、中身のあるリフォーム工事になったと思います。

リフォーム後平面図



応募者

設計者

施工者

築年数

構造

建方形式

竣工

工事期間

工事費

所在地

リフォーム内容

株式会社 正匠

下城 正一

株式会社 正匠

37年

木造

一戸建て

2020年3月

180日間

2,500万円

始良市

リノベーション工事

リフォーム前



1階リビング
(和室に特徴あり)



2階リビング
(キッチンを撤去)



2階洋室
(ポウウィンドウを活かす)



↑ 2階シャワーを洗面に
(イメージが暗く感じた)

既存建物の特徴としてデザインが古くて暗いイメージがありました。断熱性能もあまり良くなく、入れ替えが必要と判断しました。1階和室や2階ポウウィンドウは、面白く感じたので特徴を活かすプランニングとしました。元々、二世帯住宅だったということもあって、空間のボリュームは豊富で、とてもポテンシャルの高い中古住宅だと思いました。

リフォーム後



1階リビング
(照明や内装、畳の素材感で空間を構成する)



2階シャワーを洗面に
(壁紙と洗面の色調を合わせる)



2階リビング
(シアタールーム)

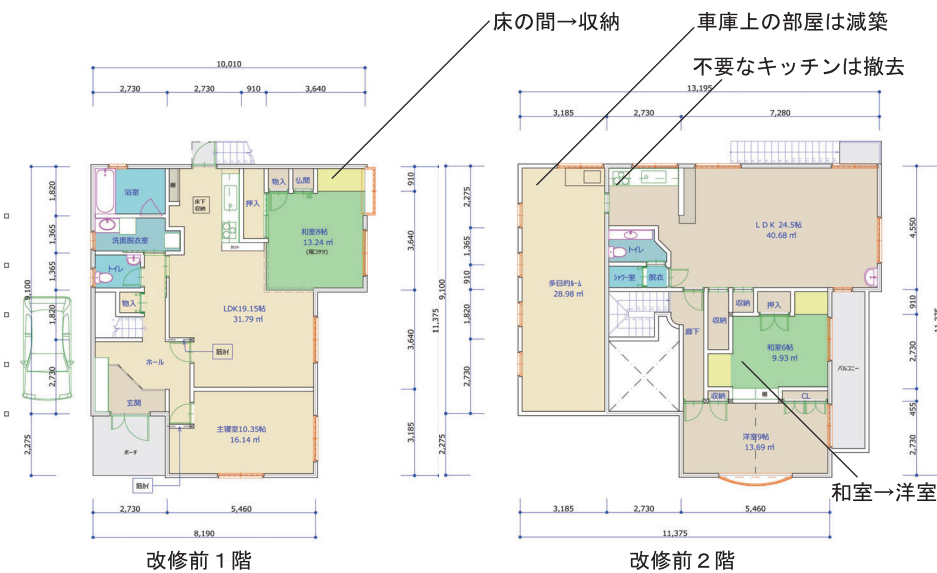


1階和室
(アクセントカラー)



2階子供室
(パステルカラー)

リフォーム前平面図



設計施工のポイント (増改築等の工夫)

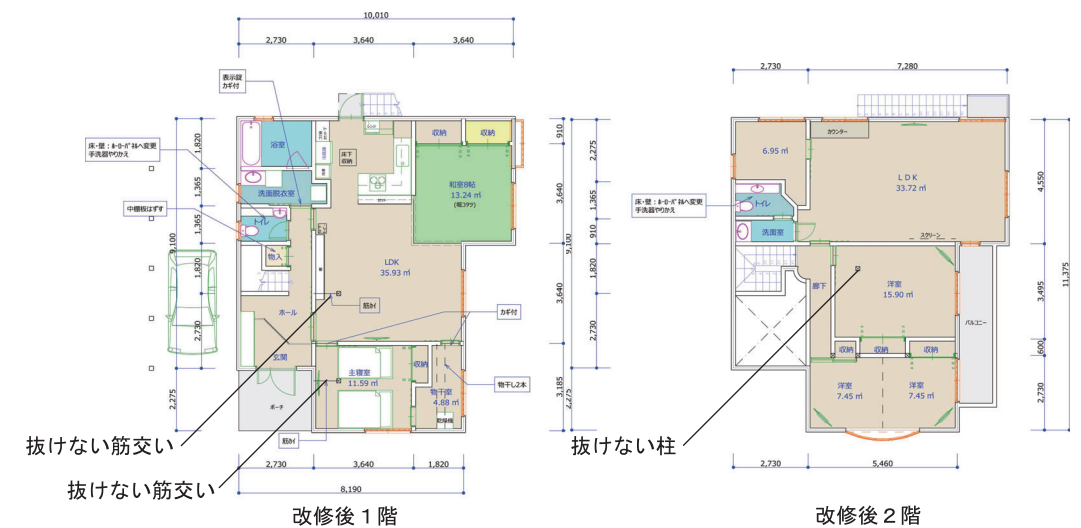
□デザインの特徴

- リビング空間を要所ととらえ、特に留意してデザインしました。1階リビングと2階リビングの雰囲気を変えて、1階は家族の空間、2階はプロジェクターがあるシアタールームと、各々特徴付ける設計としました。
- 和室はあえて、床の間を実用的な収納にして、格式より機能性を重視しました。インテリアデザイナーの提案で、和室の一部にアクセントカラーを差し込みました。
- 2階子供室は子供達の要望を踏まえ、やわらかいパステルカラーを採用しました。

□技術的な工夫

- 中古住宅を今の住環境の基準にグレードアップさせるため、断熱材を入れ替えました。
- 間取りを変えるために、壁の位置の変更が出たのですが、筋交いや柱が露出した場合はあえてデザインとして、そのまま見せてしまう手法をとりました。
- 車庫上に前の家主が増築した部屋があったのですが、新しい施主のライフスタイルを考慮して、必要ないと判断し、減築することにしました。

リフォーム後平面図



応募者

志賀建築設計室

設計者

志賀建築設計室

施工者

リフォーム
ヨコムラ

築年数

30年

構造

木造

建方形式

一戸建て

竣工

2020年1月

工事期間

180日間

工事費

1,000万円

所在地

鹿児島市

リフォーム内容

外部：防水、塗装のみ
内部：間取りの変更、水廻り改修、断熱改修、仕上げ改修

リフォーム前



リフォーム前平面図

設計施工のポイント

- 改修前は、一般的な4LDKの間取りである。主寝室のみを個室とした1LDKとし、桜島に面する東側はワンルームとして3つの窓で桜島の姿をとらえるプランとした。
- 窓には、2段階で桜島と空の景色をコントロールできる「上げ上げ障子」を設けた。
- リビングには段差を設け手摺越しに床座でも景色を楽しめる床の高さに、タタミコーナーは、段差を椅子として利用できる書斎を兼ねられる床の高さとした。
- 玄関ホールは、隣の個室の壁を撤去して、光あふれる空間とし、シューズクローク、ウォークインクローゼットを通ってもLDKにつながるプランとした。
- 玄関ドアには、古い欄間をアップサイクルして網戸として取付、外部に面する既存サッシに内窓(LIXILインプラス)と「上げ上げ障子」を設け断熱性を向上させた。

リフォーム後



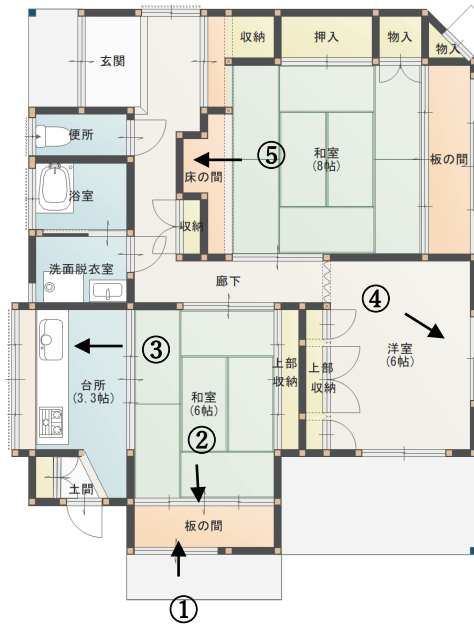
リフォーム後平面図

応募者	設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	所在地	リフォーム内容
株式会社 IFOO	株式会社 IFOO	株式会社 ベガハウス	11年	鉄筋 コンクリート造	共同住宅	2020年5月	120日間	2,100万円	鹿児島市	全面リフォーム

リフォーム前



①改修前 築50年の家。増改築を繰り返してきた。



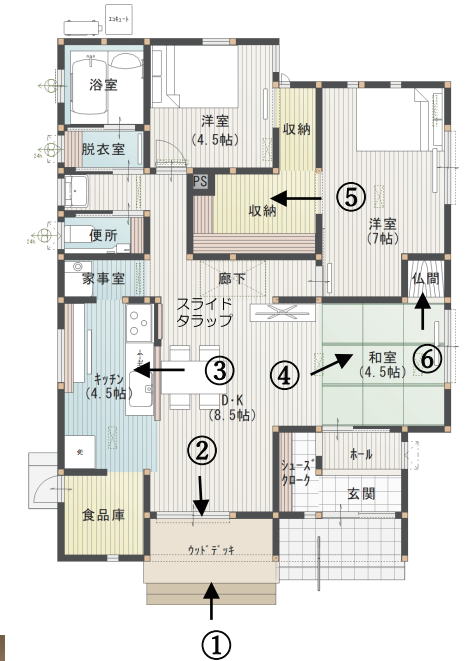
リフォーム後



①改修後 住みやすい家になりました。



②壁付け照明を採用したことにより、落ち着いた雰囲気



◎お客様のねがい

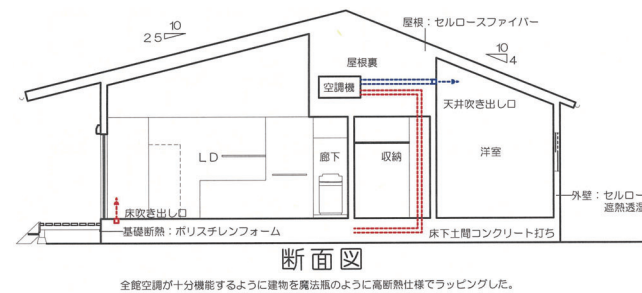
- ・50代の娘夫婦が80代の両親と住むために築50年の家の全面リフォームを希望。
- ・伊佐市は盆地のため「鹿児島の北海道」と呼ばれるほど寒暖差が激しい土地柄。夏涼しく冬暖かい家を目指し、OMソーラー社のパッシブエアコンを採用。
- ・家の建坪が小さいため、少しでも広く見えるように天井高を上げ、玄関とホールの面積を最小にして部屋面積を広げたい。
- ・日常和室から氏神様にお参りできるように東側の窓は掃き出し窓にしたい。
- ・高齢の両親がいるのでオール電化・バリアフリーを採用。



②和室6帖から見た板の間。日当たりが一番いい場所

◎内装のこと

- ・鹿児島県産材の杉板 12mmを採用、構造材は県産材。
- ・サッシは全て Low-e 複層ガラス・アルミ樹脂複合を採用。
- ・玄関ドアは入りやすいようにスライディングドア。FIX 付きで玄関が明るくなった。
- ・天井裏にある空調機器の点検と小屋裏収納の出入りをスムーズに行えるようにスライドタラップを設置。
- ・吹抜けにはあえてダウンライトを設けず、壁付け照明にすることでほんのり明るく落ち着いた雰囲気になるよう計画した。
- ・リビングの壁紙は部屋の湿気を外になるべく出せるよう通気性壁紙を採用。



全館空調が十分機能するように建物を魔法瓶のように高断熱仕様でラッピングした。



③対面キッチンを採用。キッチンにはIHでオール電化の家。



④氏神様のお参りがスムーズに出来るよう掃き出し窓。



⑤採光を期待できない家の中心に収納を設置。パイプスペースも収納。



⑥仏間には、既存住宅で使われていた落とし掛けを再利用。上部棚には仏像を置きます。



③独立した台所。



④洋室床板がはがれてきている。



⑤和室8帖の床の間には、ご両親が大切にしていた仏像が並びます。



外壁面に耐力面材を設置。



サイディング下地は遮熱透湿防水シート。



屋根・外壁にセルロースファイバーを現場吹付。サッシは全て取替。

設計施工のポイント（増改築等の工夫）

◎家の性能をあげるために

- ・断熱材：屋根・壁には、新聞紙をリサイクルした木質繊維系多機能セルロースファイバー断熱材を採用。
- ・耐震補強と通気層の確保をするために筋交い+耐力面材を採用。
- ・骨組になるまで解体し、屋根も重い瓦から軽いガルバリウム鋼板へ葺き替えた。
- ・全館空調が機能するように断熱材を強化し、建具を減らし空気がスムーズに循環するようにしたが、プライバシーも確保できる間取りにした。
- ・基礎からの空気が部屋に入ってくるため、人体に影響のないホウ酸を用いた防腐防蟻処理を採用。土台・大引・床板・面材・柱・間柱・根太に塗布した。
- ・床下に防湿シートと土間コンクリートを打設。
- ・一部ベタ基礎を採用。

応募者

設計者

施工者

築年数

構造

建方形式

竣工

工事期間

工事費

所在地

リフォーム内容

株式会社タケシタ

竹下建築設計事務所

株式会社タケシタ

50年

在来木造

一戸建て

2020年2月

150日間

1,760万円

伊佐市

全面リフォーム+増築

リフォーム前

①増築前通路（露地）部分 1.9 坪



②通路（露地）見返り



③改修前 既存押入れ部分



リフォーム後

①完成通路（露地）



②通路（露地）見返り



③押入れを漆喰壁に塗り替え



④露地への出入り口



木摺漆喰工法（木摺下地）砂漆喰施工状況



④改修後 出入口から漆喰壁になる



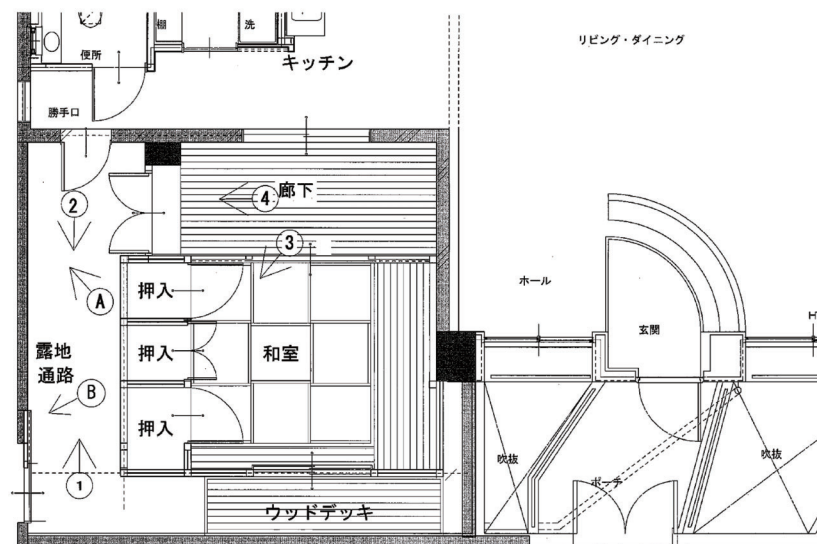
古材と室礼



新設押入れ



リフォーム前平面図



リフォーム前

設計施工のポイント（増改築等の工夫）

施主様のご要望

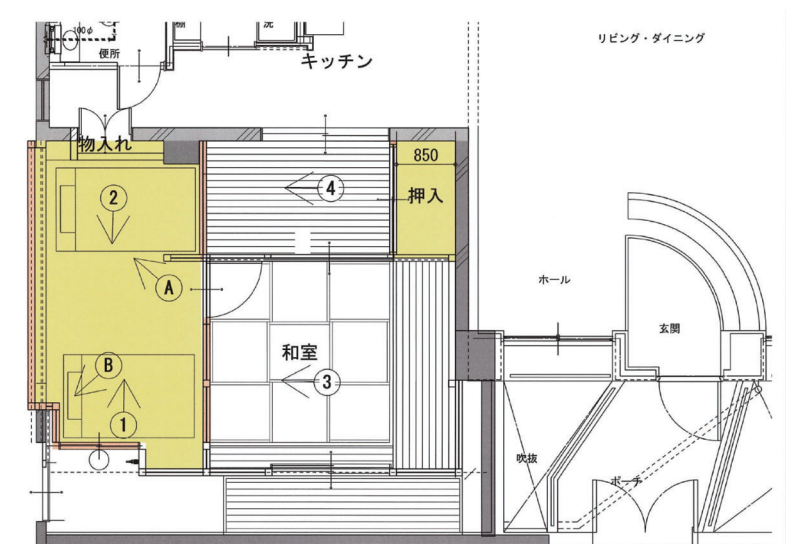
還暦を迎え、これからの人生で大事なのは、質の良い睡眠ではないかと思い、寝室と和室を作りたいとの希望。

既存の通路（露地）と和室の押し入れを取り込んで設計、施工しました。また、心地よい就寝を得る為に内部の仕上げに、壁に木摺漆喰、化粧梁に古材、天井に木材を使用しました。

木摺漆喰は、古くは、天平時代の東大寺に使われたといわれています。砂漆喰、本漆喰はアルカリ性で抗菌、防カビなどの効果が期待できます。漆喰は酸素ではなく、二酸化炭素を吸いながら、長い時間をかけて固まります。その速度は、1mmに対して約10年とも言われています。通常本漆喰は3mm程度塗ります、そうすると約30年間、石化するまで性能を発揮してくれる計算になります。

木材は、調湿作用があり湿気を吸い込んだり吐き出したりします。昔からある素材を使い、心地よい寝室になったと思います。

リフォーム後平面図



リフォーム後

応募者

(株)建築工房
WorkSpace

設計者

(株)建築工房
Work・Space 大城孝一

施工者

(株)建築工房
Work・Space

築年数

18年

構造

鉄筋
コンクリート造

建方形式

一戸建て

竣工

2019年12月

工事期間

70日間

工事費

300万円

所在地

鹿児島市

リフォーム内容

一部増築、内部模様替え

今年で第30回を迎える「住まいのリフォームコンクール」は、
広く県民の方々に住宅リフォームの普及促進と質の向上を図るべく、
（公財）鹿児島県住宅・建築総合センター主体の元、実施しているものです。

令和2年10月
発行：鹿児島県住宅リフォーム推進協議会